

【テーマ2】 府立高校の教育力を向上させます

めざす方向

- ◆グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ◆キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ◆計画的な施設整備やICT環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ◆府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平な入学者選抜制度とします。
- ◆各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>

■英語コミュニケーション能力の育成

* 骨太の英語力養成事業

- ・府立高校生の英語4技能（聞く・話す・読む・書く）の引上げを行うため、府立高校17校でSET（Super English Teacher）によるTOEFL iBTを扱った授業を導入するとともに、TOEFL講座の実施や生徒の海外研修派遣を実施します。

* 英語教育推進事業



- ・在籍校によらず、意欲ある生徒に対して「聞く・話す」能力の鍛錬を行い、英語能力を引上げるため、府立・私立の高校生を対象に、特訓クラスの設置や生徒の海外研修支援を実施します。

<何をどのような状態にするか（目標）>

◇成果指標（アウトカム）

（数値目標）

- * SET配置校におけるTOEFL iBT(*3)オンライン受験（※）で下記のスコアめざします。
 - <H27配置校：SETは1・2年生を指導>
 - 1年生：40点以上が受講者の6%以上
 - 2年生：40～59点が受講者の35～47%、60点以上が受講者の6%以上
 - <H28配置校：SETは1年生を指導>
 - 1年生：40点以上が受講者の6%以上
 - 2年生：60点以上が受講者の5%以上
- ▶ ※iBTオンライン練習テストを活用してスコアを把握

- * 特訓クラス（Advanced Class）受講者の英検2級、TOEFL iBT40、IELTS(*4)5.0以上相当の英語力を有する生徒の数を増やします。（参考）平成27年度 46名
- * 府立高校で海外研修新規実施校を増やします。

<進捗状況（H29.3月末時点）>

■英語コミュニケーション能力の育成

- 骨太の英語力養成事業については、以下のとおり取り組んだ。
- ・TOEFL iBT のオンラインテストに挑戦して効果測定を行う「iBT チャレンジ支援」を府立高校17校に加え、私立6校も参加して実施。
- ・SETによる公開授業及びSET研修兼連絡会を実施。
- ・教員へのiBT研修：年5回実施。
- ・生徒の海外研修派遣を17校で実施。

- ▶ ・SET配置校におけるTOEFL iBTオンライン受験結果
 - <H27配置校>
 - 1年生：40点以上が受講者の33.3%
 - 2年生：40～59点が受講者の35.6%、60点以上が受講者の9.2%
 - <H28配置校>
 - 1年生：40点以上が受講者の27.6%
 - 2年生：60点以上が受講者の9.1%

- 英語教育推進事業については以下のとおり取り組んだ。
- ・教員研修（英語教育推進リーダー養成研修）
 - センター研修実施（5月）
 - プリティッシュカウンシルによる教員研修実施（7月）
- 受講者による研究授業を3校において実施

(10月～11月)

受講者によるリーダーとしての取組・次年度の取組計画の発表
(2月)

- ・特訓クラス (Advanced Class) 受講者の英検2級 (相当) の英語力を有する生徒の数 50名
- ・海外研修新規実施校 2校
- ・教員研修参加者 英検準1級 (相当) 86%

■理数教育の充実

・10月に「第9回大阪サイエンスデイ (生徒研究発表会、第6回科学の甲子園大阪府大会)」を開催。

・生徒研究発表会に26校が参加した。

参加校：サイエンス・スクール・ネットワーク連携校 26校

(内訳：府立18校、私立3校、市立2校、国立1校、台湾2校)

(参考) 平成27年度 22校

・第6回科学の甲子園大阪府大会に22校が参加した。

参加校：府立11校、私立6校、国立1校、市立4校

(参考) 平成27年度 22校

■グローバルリーダーズハイスクールの充実

・6月に4名の外部有識者からなる評価審議会を開催し、平成27年度の各校の取組みと実績について評価。

・7月～8月に、海外研修を実施し、2月に合同発表会を実施。

*学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度 平成28年度 86.1%

*現役での国公立大学進学率の平成28年度の結果は、H29.6下旬に公表予定。

(参考) 平成27年度 3校

*教員研修参加者が全員英検準1級 (相当) 以上を取得します。

(参考) 平成27年度 参加者の83%が取得


*学校教育自己診断(*5)における生徒の学校生活満足度を向上させます。

(参考) 平成27年度 87.4%

*現役での国公立大学進学率を向上させます。

(参考) 平成27年度 38.5%

■理数教育の充実

*大阪サイエンスデイ 

・スーパーサイエンスハイスクール指定校を中心に、府内の国公立高校の生徒が集い、理科・数学分野等の研究成果や海外研修の成果を発表します。

■グローバルリーダーズハイスクール(*2)の充実

*グローバルリーダーズハイスクール支援事業

・10校による合同発表会や海外研修を行います。また、各校の取組みや実績について、外部有識者による評価を行います。



は、公私双方を対象とする取組み

■ 工科高校の充実

- ・府立工科高校の教育の質を向上させ、将来の大阪のものづくりの基盤を支える人材育成を図るため、産業教育に関わる有識者、経済団体や府商工労働部からの委員で構成する「工科高校魅力化推進協議会（仮）」を設置します。
- ・企業の現場で通用するようなレベルの高い実習の様子や、卒業生が企業で生き生きと活躍している姿を記録したプロモーションビデオを学校と協働して作成するなど、工科高校の魅力発信に努めます。

■ 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置

* エンパワメントスクール(*6)の設置

- ・エンパワメントスクールにおいて、「学び直し」や「正解が1つでない問題を考える授業」、「体験型の授業」を重視したカリキュラムを編成し、教育内容の充実を図るとともに、教育効果を一層高めるため無線LAN環境や実習室等を整備します。また、生徒の進路実現を支援するキャリア教育コーディネーターや生活面での課題を抱える生徒をサポートするスクールソーシャルワーカーを活用します。

* 平成29年度選抜において、全ての府立工科高校9校で募集人員の充足をめざします。

(参考) 平成28年度選抜
7校で募集人員を充足せず

◇活動指標（アウトプット）

(数値目標)

* 平成30年度までに10校程度を設置します。

(参考) 平成27年度開校 3校
平成28年度開校 2校
平成29年度開校 1校

■ 工科高校の充実

- ・5月に第1回工科高校魅力化推進プロジェクトチーム会議（PT会議）を開催。
- ・7月に第2回PT会議を工科高校で開催。授業・施設見学後、具体的な魅力発信手段等につき協議を行った。
- ・8月に40本以上の動画で構成する、工科高校の魅力発信ホームページを開設。
- ・9月より中学校などで実施される進路説明会で工科高校についての出前PRを実施。
- ・ホームページの動画に簡単にアクセスできるようQRコードを記載した「動画で知ろう大阪府立工科高校魅力動画QR冊子」を作成し、10月末より大阪府内すべての中学3年生に配付した。

*平成29年度選抜 5校で募集人員を充足

■ 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置

- ・平成27年度に開校した3校に加え、平成28年度に成城高校、岬高校の2校をエンパワメントスクールとして開校した。
- ・1年次生を対象に実施している5教科の「学び直し授業」や「正解が1つでない問題を考える授業」の充実を図るため、授業力向上を目的とした連絡会や研修会を定期的実施した。
- ・キャリア教育コーディネーター（CC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の効果的な活用を図るため、CC、SSW及び各校担当教員を対象とした連絡会や研修会を実施した。
- ・平成29年度に開校する布施北高校については、担当教員を対象とした連絡会や研修会を実施し、カリキュラムの策定や教材づくりを行った。また、無線LAN環境や実習室等を整備した。
- ・11月の教育委員会会議において、平成30年度から、西淀川高校と北淀高校を統合した新校と和泉総合高校の2校を新たにエンパワメントスクールとして開校するこ

■中高一貫校の設置

*併設型中高一貫校整備事業

- ・府立の併設型中高一貫校の開校に向け、中学校設置に伴う規則等の整備や学校教育計画等の作成、入学選抜の実施、施設整備（技術室・配膳室等）、教具の調達等を行います。

- *平成29年4月に併設型中高一貫校として、府立富田林高等学校に併設する中学校を開校します。

とを決定した。

平成27年度開校	3校
平成28年度開校	2校
平成29年度開校予定	1校
平成30年度開校予定	2校

■中高一貫校の設置

- ・中学校設置に伴う規則等の整備や学校教育計画等の作成を行った。
- ・富田林中学校の設置及び運営に向けた準備として、4月に入学選抜方針を、7月に入学選抜実施要項を作成し、1月に入学選抜を実施した。(志願者603人/定員120人)
- ・学校紹介リーフレットを作成し、学校説明会を、5,6,7,11月の4回開催した。
- ・7月に教科書選定を行い、8月に教育委員会会議において採択した。
- ・技術室や配膳室等の施設整備を10月に完了した。
- ・中学校で必要となる教具等の調達を行った。

生徒の自立を支える教育の充実

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>

■キャリア教育の推進



*キャリア教育支援体制整備事業

- ・就職希望者が多く、就職に課題がある37校（府立32校、私立5校）で就職支援コーディネーター(*7)やスクールソーシャルワーカー(*8)を活用します。

<何をどのような状態にするか（目標）>

◇成果指標（アウトカム）

- (数値目標)
- *就職内定率の向上を図ります。
- (参考)平成28年3月末就職内定率（府立高校全日制・定時制）94.0%

<進捗状況（H29.3月末時点）>

■キャリア教育の推進

- ・対象校37校(府立32校、私立5校)に対し、就職支援コーディネーターを配置し、そのうち拠点校2校、ブロック拠点校4校にスクールソーシャルワーカーを配置した。

*平成29年3月末の就職内定率は5月下旬頃公表予定

<p>■ 中退防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率の高い37校に中退防止コーディネーター(*9)を配置し、中高連携の推進や校内組織体制づくりをすすめます。 ・全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを発信します。 <p>* 様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題を抱える生徒が多い府立高校（定時制課程）4校にスクールソーシャルワーカー(*8)を配置し、学校への定着を図ります。 <p>■ 長期入院している生徒等への学習支援</p> <p>* 長期入院生徒学習支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気やけがでの入院により長期間登校できない府立高校生に対して、在籍校の教員が病院へ出向き状況に応じた授業を行います。 <p>* 在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、在宅等で学校との双方向の授業に参加できる仕組みについて運用を継続し、学校を支援していきます。 	<p>* 府立高校（全日制の課程）の中退率1.5%以下をめざします。</p> <table border="0"> <tr> <td>（参考）平成27年度</td> <td>1.5%</td> </tr> <tr> <td>過去5年間の平均</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>過去5年間のうちの最小値</td> <td>1.5%</td> </tr> </table>	（参考）平成27年度	1.5%	過去5年間の平均	1.6%	過去5年間のうちの最小値	1.5%	<p>■ 中退防止対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退防止コーディネーターを配置している37校で、校内組織や指導体制に関する数値目標を設定。 （7月中旬頃に達成状況を確認予定） ・7月に中退防止コーディネーター連絡協議会を実施し、各校の実践事例を共有化し、12月に中退防止フォーラムを開催した。 <p>○ 様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業については、スクールソーシャルワーカーを配置している4校で連絡会を4回開催し、校内体制や支援事例等について情報の共有を行った。</p> <p>（*平成28年度府立高校（全日制の課程）の中退率については、H28.9に公表予定。）</p> <p>■ 長期入院している生徒等への学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長期入院生徒学習支援事業については、対象生徒（13校13人）に対して、在籍校教員が病院へ出向いて状況に応じた授業を実施。 ○ 在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援については、4校で遠隔授業（学校と自宅もしくは病院を接続）を実施。
（参考）平成27年度	1.5%							
過去5年間の平均	1.6%							
過去5年間のうちの最小値	1.5%							

学習環境の整備

<p><今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）></p>	<p><何をどのような状態にするか（目標）></p>	<p><進捗状況（H29.3月末時点）></p>
<p>■ ICT環境の充実</p> <p>* 学校情報ネットワーク再構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回線増強をはじめとした再構築を行い、ICTを活用した学習環境の整備を進めます。 	<p>▷ ◇活動指標（アウトプット） （定性的な目標）</p> <p>* 大容量のネットワーク環境を整備します。 （回線について、平成28年度に300M×1を1G×4（ベストエフォート）に増強し、より速く、より安定したネットワーク環境とします。</p>	<p>▶ ■ ICT環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に大容量のネットワーク環境（1G×4（ベストエフォート））を再構築。 ・8月にセンターサーバ機能の内容を精査した上で、ネットワーク新規構築を実施。

公平でわかりやすい入学者選抜の実施

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■ 入学者選抜制度の改善と調査書の絶対評価導入への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな選抜制度における調査書の評定について公平性を担保するため、チャレンジテストの結果を活用します。 ・今年度実施の平成29年度選抜では、第3学年・第2学年の評定を活用します。 ・各中学校の学習評価の妥当性・信頼性を高めるため、府内全市町村教育委員会とともに研究協議を行い、市町村や各校の評価活動における組織的な検証改善の取組みを支援します。 ・入学者選抜の学力検査「英語」において、英語資格（外部検定）を活用します。 	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 調査書評定の公平性を担保し、新たな制度での入学者選抜を平成28年度選抜から実施します。（府内統一ルールのもと、中学校の評価活動が適正に行われたか検証を行います。） 	<p>■ 入学者選抜制度の改善と調査書の絶対評価導入への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学者選抜において、絶対評価の府内統一ルールの実施状況について、市町村教育委員会を通して調査を行い、すべての中学校で作成された調査書の評定が、府内統一ルールで定める範囲に収まっていることを確認した。 ・平成29年度選抜については、平成28年2月に方針を定めた。 ・調査書作成ソフトによる調査書の作成等を実施要項において定め、市町村教育委員会、高等学校及び中学校等への説明会を実施し、制度の周知を図った。 ・入学者選抜において、英語資格（外部検定）を活用した。

就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■ 奨学給付金制度の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> * 公立高校生奨学給付金事業 ・国公立高校に在籍する低所得世帯の生徒に対して、学校徴収金をはじめ、就学のために必要な経費に充てるための給付金を支給します。 	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>（定性的な目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 低所得者世帯の授業料以外の教育費負担を軽減します。 	<p>■ 奨学給付金制度の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に国基準の改定（非課税世帯の1人目の支給単価引上げなど）を踏まえて支給要綱を改正。 ・7月末まで 受給申請書の受付 ・12月中旬 給付金決定通知 ・12月下旬 給付金の支給

活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H29.3月末時点）＞
<p>■ 府立高校の再編整備の計画的な推進</p> <p>* 府立高等学校再編整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の改編に向け、施設・設備の整備やプロジェクトチームの運営、中学生等へのPRを行います。 府立高校における教育環境の向上と教育内容の充実と併せて、効果的・効率的に教育活動を行う観点から適正な規模を維持しながら適正な配置を進めます。 	<p>◇活動指標（アウトプット） （数値目標）</p> <p>* 平成29年度改編</p> <p>エンパワメントスクールへの改編 1校</p> <p>普通科総合選択制から普通科専門コース設置校への改編 3校</p> <p>普通科総合選択制から総合学科への改編 2校</p> <p>* 平成30年度までに府立高校・市立高校あわせて7校程度の募集停止を行います。</p> <p>（参考）募集停止</p> <p>平成28年度入学者募集時 2校</p> <p>平成29年度入学者募集時 1校</p> <p>平成30年度入学者募集時 1校</p>	<p>■ 府立高校の再編整備の計画的な推進</p> <p>〔平成29年度開校・改編〕</p> <p>エンパワメントスクールとして開校 1校（布施北）</p> <p>普通科総合選択制から普通科専門コース設置校へ改編 3校（東淀川、かわち野、りんくう翔南）</p> <p>普通科総合選択制から総合学科へ改編 2校（門真なみはや、伯太）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に改編する高校については、教育内容の充実に向けて、カリキュラムを策定し、施設・設備の整備を行った。 広報については、エンパワメントスクールなどの改編校や改編予定校を紹介するリーフレット等を作成し、府内の公立中学校3年生全員に配付するとともに、平成29年度から開校するエンパワメントスクールの紹介動画ニュースを作成し配信した。また、府内各地域で開催される中学校長や進路担当教員等の会合で再編整備について情報提供を行った。 <p>〔平成30年度開校・改編〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月の教育委員会会議で、平成30年度から開校、改編する学校（案）を公表し、11月の教育委員会会議で決定した。 <p>（統合整備を行う学校）</p> <p>エンパワメントスクールとして開校 1校（北淀・西淀川統合新校）</p> <p>総合学科高校として開校 1校（泉尾・大正統合新校）</p> <p>（改編する学校）</p> <p>エンパワメントスクールとして開校 1校（和泉総合）</p> <p>普通科総合選択制から総合学科へ改編 1校（成美）</p> <p>普通科総合選択制から普通科専門コース設置校へ改編 3校（北摂つばさ、緑風冠、金剛）</p> <p>（能勢高校の再編整備）</p> <p>豊中高校能勢分校として開校</p>

【部局長コメント（テーマ2総評）】

＜取組状況の点検＞	＜今後の取組みの方向性＞
<p>■ 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実</p> <p>当初の目標を一部達成することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨太の英語力養成事業については、TOEFL iBTオンライン受験において数値目標を達成しました。また、英語教育推進事業については、海外研修新規実施校が2校増え、またAdvanced Classにおいては、前年度よりも英検2級（相当）の英語力を有する生徒の数が増えました。さらに教員研修参加者のうち、英検準1級（相当）以上の取得者も増加しました。 理数教育の充実については、サイエンススクールネットワーク連携校を中心に、府内の課題探究活動を行っている学校の、サイエンスデイへの参加が年々増加しました。 グローバルリーダーズハイスクール(GLHS)事業については、指定した10校の大学進学実績、各種コンクールでの入賞や課題研究・探究活動の充実、英語運用能力の向上において成果をあげていますが、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度については、前年度よりもやや低下しました。 工科高校の充実については、工科高校魅力化推進プロジェクトチーム会議の開催や、40本以上の動画から構成する工科高校の魅力発信ホームページの開設など、中学生や保護者に対して工科高校の魅力の発信を行った結果、全ての府立工科高校9校で募集人員を充足するという目標は達成できなかったものの、募集人員を充足できなかった学校は減少しました。 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置については、平成28年度にエンパワメントスクール2校を開校し、当初の目標を達成することができました。両校とも、基礎学力の充実のための「30分モジュール授業」や社会で活躍する力を身に付ける「エンパワメントタイム」の実施など順調なスタートを切っています。 中高一貫校の設置については、1月に実施した入学者選抜では、120人の募集定員に対して603人の志願者があり、平成29年4月に開校しました。 <p>■ 生徒の自立を支える教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進について、「キャリア教育支援体制整備事業」においては、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した支援校で、平成28年度の就職内定率が平成27年度と比較して6%上昇（89.5%→95.5%）しています。 中退防止対策の推進については、平成27年度の府立高等学校（全日制の課程）の 	<p>■ 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨太の英語力養成事業、英語教育推進事業により、引き続き、高校生の英語能力の引き上げを図ります。 今後も、サイエンスデイへの参加校の増加を図るなど、理数教育の充実に取り組みます。 指定したGLHS10校の大学進学実績、各種コンクールでの入賞や課題研究・探究活動の充実、英語運用能力の向上において、引き続き成果をあげるよう取組みを進めます。 平成30年度選抜において、府立工科高校全9校で募集人員を充足できるよう、引き続き工科高校の魅力発信に取り組みます。 エンパワメントスクールについては、府内の各地域から通学できるよう、計画的に設置を進めます。平成29年度には1校を開校し、平成30年度に開校予定の2校の開校に向けた準備を行います。 府立富田林中学校・高等学校において、6年間を通した一貫性や系統性を持たせた指導を行い、「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題発見・解決能力」、「社会貢献意識と地域愛」の3つの資質を育成する教育を実施します。 <p>■ 生徒の自立を支える教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育支援体制整備事業により構築した校内体制及び就職支援に関するノウハウを有効活用します。 中退防止コーディネーター連絡協議会や中退防止フォーラムの実施により、各校の実践

中退率は前年度と同様の1.5%であり、また、中退防止コーディネーターを配置している学校のうち、14校で中退率が上昇するなど、さらなる取組みが必要です。

■ 学習環境の充実

当初の目標を達成することができました。

- ・ICT環境の充実に伴う大容量のネットワーク環境を整備しました。

■ 公平でわかりやすい入学者選抜の実施

当初の目標を達成することができました。

- ・府内統一ルールのもと、当初の予定どおり、調査書の評定の公平性を担保した選抜を実施しました。

■ 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり

当初の目標を達成することができました。

- ・奨学給付金制度の実施については、当初の予定どおりに取り組みました。

■ 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

当初の目標を、ほぼ達成することができました。

- ・平成29年度に開校するエンパワメントスクール1校、総合学科へ改編する学校2校、普通科専門コース設置校に改編する学校3校の開校・改編の準備を行いました。
- ・平成30年度に開校・改編する学校を決定し、その実施に向けた検討や準備を進めました。
- ・平成28年度までに、4校の募集停止を決定しました。

事例の共有をより推進するとともに、中退者の多い学校(10校程度)を重点的に支援し、中退防止対策を着実に進めています。

■ 学習環境の充実

- ・ICT機器の調達を進めるとともに、新たなネットワーク環境に対応できるよう機器の設定変更等、必要な作業を順次進めています。

■ 公平でわかりやすい入学者選抜の実施

- ・平成30年度入学者選抜に向けて、市町村教育委員会、中学校等及び高等学校への周知を図るとともに、中学校等及び高等学校における選抜事務作業が円滑に行われるよう制度の改善を進めています。

■ 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり

- ・国の平成29年度予算の概算要求で、奨学のための給付金のさらなる拡充が検討されていることから、その動向を踏まえて、府としても制度の周知と充実に努めます。

■ 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

- ・引き続き、活力ある学校づくりと教育内容の充実に向けて、再編整備を進めてまいります。
- ・平成29年度にエンパワメントスクールへの改編校など6校を開校・改編します。
- ・平成30年度に開校・改編予定の学校については、その実施に向けた準備を行います。
- ・平成31年度に開校・改編する学校を検討し、決定後にその実施に向けた準備を進めます。